

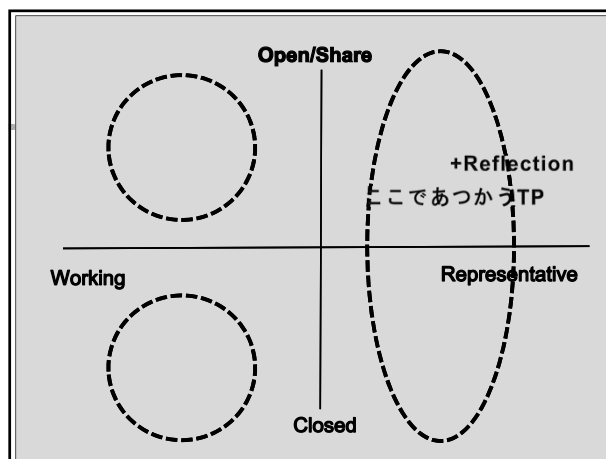
ティーチング・ポートフォリオ作成 ミニワークショップ

栗田佳代子
東京大学 大学総合教育研究センター

目次

1. ティーチング・ポートフォリオとは
2. 目的と意義：なぜTPか？
3. TPが機能するための条件
4. 高等教育の質保証とTP
5. TPチャート作成

1. ティーチング・ポートフォリオ とは？



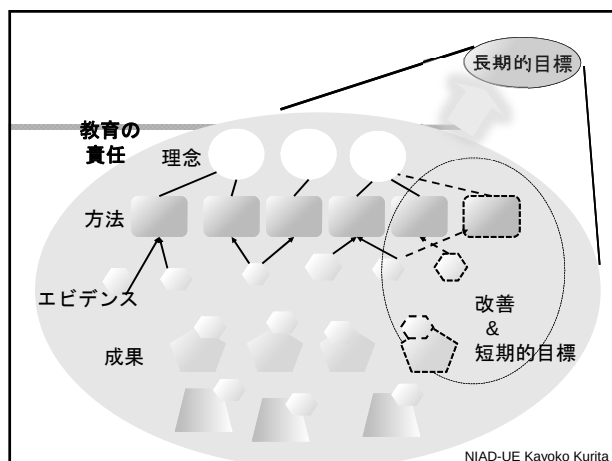
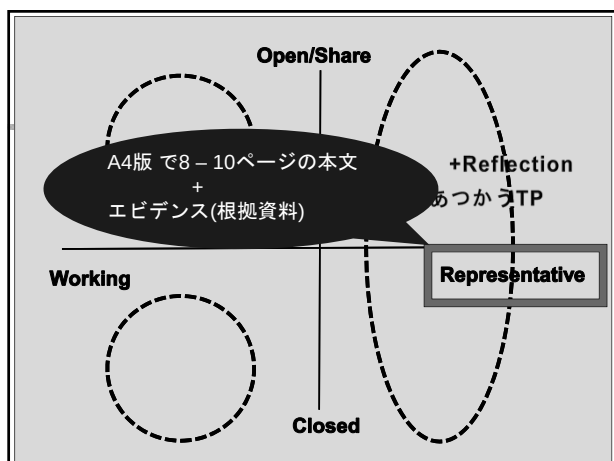
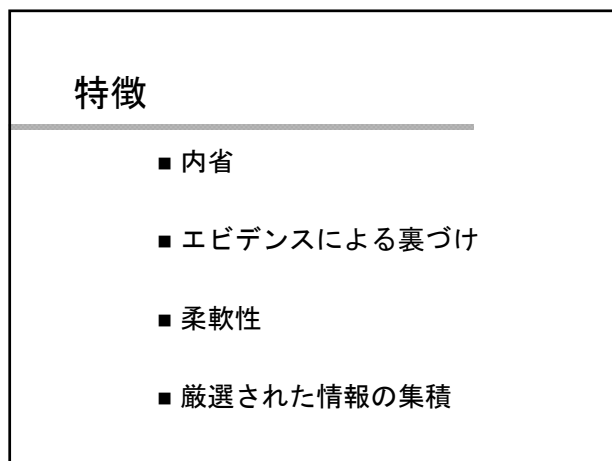
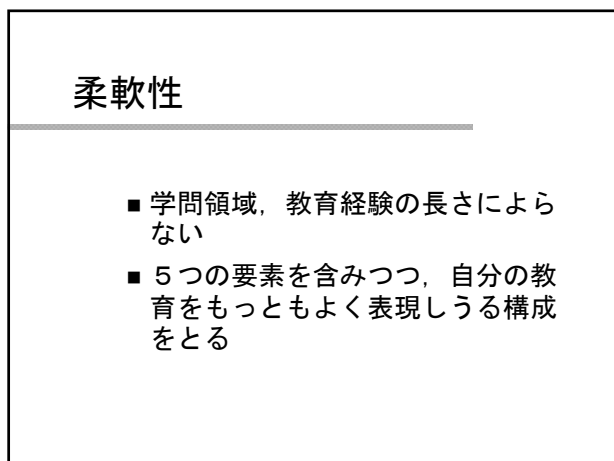
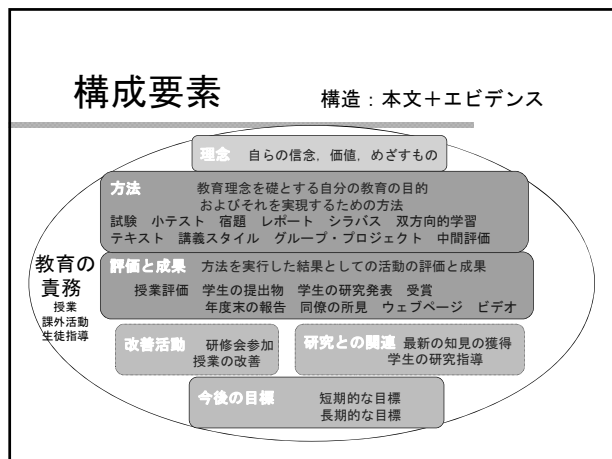
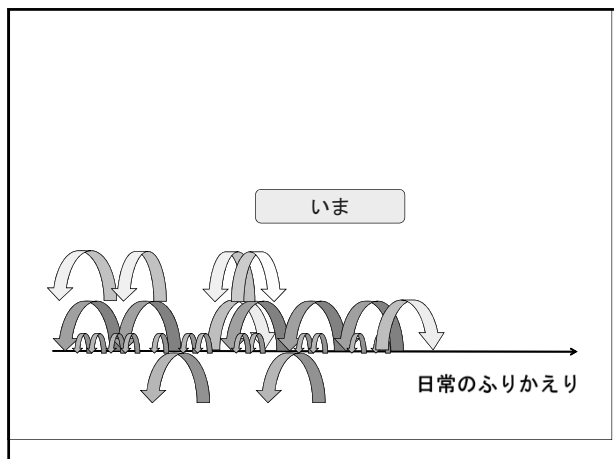
現在

- 北米での普及 約2,000機関以上において利用
一教育改善, テニユア審査資料, 採用・昇進
- 中教審答申(2008)
「学士課程教育の構築に向けて」
- 日本では約30機関が導入済, およそ400名が作成



ティーチング・ポートフォリオとは

自らの教育活動について振り返り,
その記述をエビデンスによって裏
付けた, 厳選された記録



2. 目的と意義：なぜTPか？

TP作成の目的

- ふりかえりに基づく教育改善
- 人事、優秀教員賞などの教育業績評価資料
- 知の共有
- 情報発信

教員にとってのTP

- 教育者としての振り返り
- 教育活動の礎として
- 教育への正当な評価を得るための手段
- 評価への効率的な対応・省力化
- 各種の提出資料に対する意識変容
- 主体性の回復・教員としてのQOLの向上

組織にとってのTP

- 教員の教育活動の理念の把握—「なぜそうしているのか」
- 見えにくい教育活動をひろいあげる
- 様々な取組みの統合
- 教員評価における多様な評価視点
- 教育資源の共有
- 外部への発信

3. TPが機能するための条件

TPが機能するための条件

- 執行部と作成者のTPに対する正しい理解
- 導入プロセス 時間をかける必要
- 作成者の尊重
- メンターの確保
- 維持・更新方法
- 評価方法などの綿密な制度設計

導入している機関の特徴

- ティーチング・ポートフォリオについて中心に関与できる人物の存在
- 組織/執行部の方針としての導入の決定
- Small Start

導入している機関の特徴

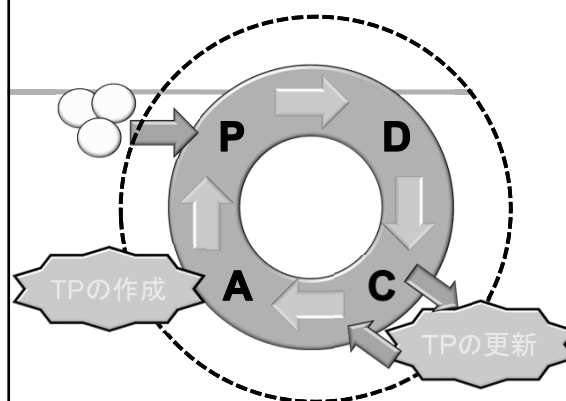
		企画責任者のTP作成	
		○	×
セミナー等の実施	○	／8	／7
	×	／5	

(2010年)

TPの二大短所

- 時間・手間がかかる
- 評価が難しい

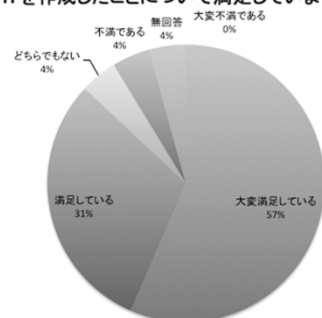
4. 高等教育の質保証とTP



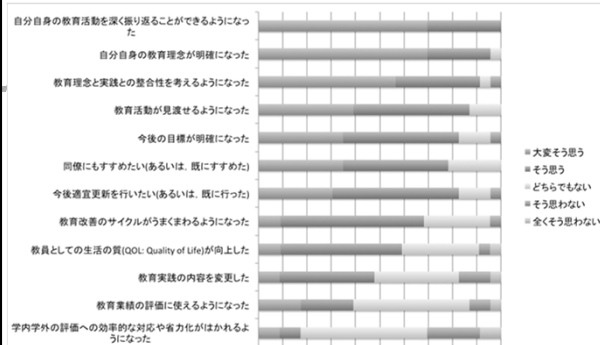
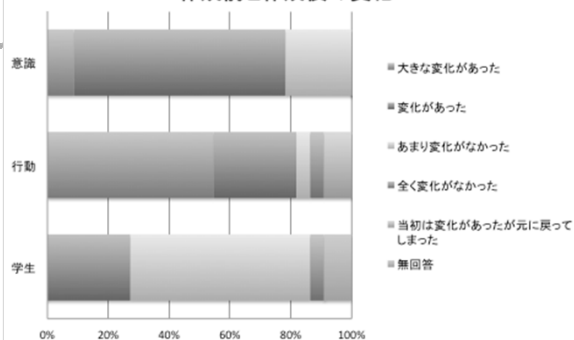
フォローアップ調査(予備調査)

- 調査時期 2012年11月
- 調査対象 一国立大学に所属する教員28名
- 有効回答:22/28 (78.6%)
- 特徴など
 - 作成時期2009-2012年
 - 教育年数, 職位, 専門領域は多様

TPを作成したことについて満足していますか。



TP作成前と作成後の変化



ありがとうございました

栗田佳代子
kurita@he.u-tokyo.ac.jp